

IZUTSUYA

IZUTSUYA

第129期

事業のご報告

2023年3月1日から
2024年2月29日まで

IZUTSUYA

IZUTSUYA

井筒屋は

「奉仕こそ繁栄の基」

という奉仕の精神を日常の実践的心構えとし

「秩序のうえに立つ創造的繁栄」

をはかることを経営理念と定めています。

目 次

株主の皆様へ	1
事業の経過およびその成果	2
対処すべき課題	4
トピックス	5
井筒屋グループ 中期3ヵ年経営計画	6
CSR活動	7
人的資本経営の取り組みについて	8
財産および損益の状況の推移(連結)	9
連結子会社	9
財産および損益の状況の推移(個別)	10
商品別売上高(個別)	10
財務諸表(連結)	11
(個別)	13
井筒屋グループ百貨店 および主要なショップ	15
株式の状況	17
会社の概要	18
従業員の状況	18
取締役および執行役員、監査役	18
株主優待制度のご案内	19
株主メモ	20
ホームページのご案内	21

株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社は、さる2月末日をもって第129期(2023年3月1日から2024年2月29日まで)事業年度を終了いたしましたので、事業の概況につきまして、ご報告申し上げます。



代表取締役 影山 英雄

当期におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が解除されたことにより、社会経済活動の正常化が進むなど、緩やかな回復傾向が続いております。しかしながら、先行きが懸念される対外情勢に加え、エネルギーや原材料価格の高騰、物価の上昇など懸念材料も多く、景気の先行きは不透明なまま推移いたしました。

百貨店業界におきましては、行動制限が解除されたことを受け、インバウンド需要を主な要因として大都市部を中心に商況は著しい回復がみられました。しかしながら、インバウンド需要の小さい地方都市ならびに郊外立地の百貨店はいまだ厳しい商況下にあるなど、総じて緩やかな回復基調に留まっております。

こうした状況の中、当社グループにおきましては、従来型の規模や量を追求する事業モデルを見直す契機と捉え、量から質への新たな事業モデルへの道筋をつける「井筒屋グループ 中期3か年経営計画(2022年度～2024年度)」を策定し、推進いたしております。計画2年目となる当期は、前期に引き続き店舗における百貨店らしさを追求するべく、好調カテゴリーの強化を図るとともに、百貨店の強みを活かした編集売場を構築することにより、店舗価値の向上および売場の活性化に努めてまいりました。

当社グループの業績につきましては、売上高は225億21百万円(前期比99.8%)、営業利益は9億98百万円(前期比84.8%)、経常利益は9億47百万円(前期比88.1%)、親会社株主に帰属する当期純利益は9億66百万円(前期比94.9%)となりました。

なお、百貨店業の代理人取引を総額に置き換えた場合の売上高は、540億77百万円(対前期比0.4%増)であります。

	井筒屋グループ	株式会社井筒屋
売上高	22,521百万円 (前期比 99.8%)	18,952百万円 (前期比 100.6%)
営業利益	998百万円 (前期比 84.8%)	979百万円 (前期比 83.2%)
経常利益	947百万円 (前期比 88.1%)	844百万円 (前期比 85.9%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	966百万円 (前期比 94.9%)	—
当期純利益	—	862百万円 (前期比 86.6%)

【百貨店業】

当社グループの主要事業であります百貨店業におきましては、「百貨店らしさの追求」を基本方針とし、品揃えの強化と更なる販売サービスの向上に努めることで、アフターコロナ、ウィズコロナ時代におけるお客様の生活様式や商環境の変化への対応力強化に取り組んでまいりました。

本店におきましては、引き続き高額品やデイリー商材の食料品などの好調カテゴリーが牽引する中、百貨店らしさの追求、他商業施設との差別化を図るための商品・サービス力強化や地域活性化などの取り組みを推し進めております。

具体的な取り組みに関しましては次のとおりです。

百貨店らしさの追求といたしましては、本館7階子供服フロアエスカレーターサイドに、サステナブルライフを推進するための自主編集セレクトショップ「SustainaBase(サステナベース)」をオープンいたしました。環境に配慮した商品等の販売や情報発信、ワークショップ、企業とのコラボレーションイベントを通じて、小売業ならではのサステナブルライフを提案しております。また、本館6階リビングフロアには様々なキッチン・ダイニング用品を取り揃えた「Kitchen Style+(キッチンスタイルプラス)」をオープンいたしました。

好調カテゴリーをはじめとした品揃え強化といたしましては、地階食品売場において神戸のチョコレートブランド「モンロワール」、「ベルプラーージュ」を導入し、洋菓子ゾーンの強化を図りました。本館2階時計サロンには「オメガショップ」、インポートゾーンに「マックスマラー」を移設リニューアルオープンし、ラグジュアリーな空間でのお買物に大変ご好評をいただいております。

また、特別なおもてなしができる体験型の商談室として外商顧客専用の「レセプションルーム」を新設いたしました。普段、取扱いのない商品やイベントに触れていただくことで、顧客満足度向上に努めております。

このほか、品揃え強化として、新館5階紳士服フロ

アでは、メンズ&レディースオーダースーツ専門ショップ「ディファレンス」、新館3階婦人服フロアではイタリアのプレミアムデニムブランド「リブレイ」をオープンいたしました。

サービス力強化といたしましては、新館7階フロアにおいて、メモリアルワンストップサービスカウンター「MUSUBI(むすび)」をオープンいたしました。家事代行やハウスリフォームといった老後の暮らしから終活まで幅広くご相談を承り、各分野のプロフェッショナルを紹介する九州の百貨店初の取り組みとなります。定期的に無料セミナーや相談会も開催し、お客様から大変ご好評をいただいております。

催事・イベントに関しましても、入場制限緩和や物産展時の試食再開等もあり、賑わいを取り戻しつつあります。恒例の「北海道物産展」、「ショコラスペシャルite」をはじめ、4年振りの開催となった「イタリア展」など、連日多くのお客様で賑わいました。

更に地元消費喚起への取り組みといたしまして、プレミアム付き地域商品券事業への参画をはじめ、本新館間クロスロードにて「クロスロードマルシェ」をゴールデンウィークに合わせ開催。また北九州市制60周年を記念して、地元の魅力を発信する催事「きたきゅうフェスティバル」を開催。「井筒屋のお中元・お歳暮」においても市制60周年特集や限定商品など、地元の繋がりを活かした取り組みを推進いたしました。今後も店内催事の開催や地域イベントへの参画など、地域の活性化に積極的に取り組んでまいります。

サテライトショップにおきましては、飯塚ショップが7月に「イオン穂波ショッピングセンター」での営業を終了し、新たに「ゆめタウン飯塚」1階に移転オー

ブンいたしました。今後とも地域のお客様との繋がりを大切にしたい店づくりに努めてまいります。

山口店におきましては、商品供給や催しにおける本店との連携強化を推し進めております。本店で取扱いのあるラグジュアリーブランド特選会の開催や本店特選会へのご招待など相互送客を図ることで、売上の拡充に努めております。引き続きお客様にご支持いただけるよう、売場の活性化や本店との連携に取り組んでまいります。

今後も、本店と山口店を旗艦店とし、お客様にご満足いただける魅力ある店舗づくりに努めてまいります。

当社グループの業績につきましては、売上高は224億81百万円(前期比99.8%)、営業利益は10億24百万円(前期比85.3%)となりました。

【友の会事業】

友の会事業におきましては、売上高は40百万円(前期比106.9%)、営業利益は52百万円(前期比86.9%)となりました。

対処すべき課題

今後の経済環境につきましては、コロナ禍からの社会経済活動の正常化が進む中、物価高や海外経済減速など、景気を下押しする要因はあるものの、企業の賃上げ定着による家計収支の改善などにより、個人消費の持ち直しも期待され、緩やかな成長路線に復するものと予測されます。

このような状況の下、当社グループでは、「井筒屋グループ 中期3ヵ年経営計画(2022年度～

2024年度)」を推進いたしております。計画最終年度にあたる本年につきまして、対処すべき課題として位置づけておりますのは、次のとおりであります。

井筒屋グループといたしましては、今後もお客様にご満足いただけるような提案を行い、地域に欠かせない存在として百貨店の役割を果たしてまいります。

店舗戦略につきましては、引き続き商品・サービスの両面で百貨店らしさを追求し、売場の魅力を高め、お客様のニーズにお応えしてまいります。

デジタル戦略につきましては、「井筒屋アプリ」を4月に導入し、お客様の利便性向上を図るとともに、効果的な営業施策を実施できる体制を構築してまいります。また、アプリをはじめSNSを活用した販売促進や、社内システムを利用した業務効率化により、経費効率の改善を図ってまいります。

併せて、当社グループの持続的成長および企業価値の向上に資するため、人材の確保はもとより、多様な人材が活躍できる機会の創出や働きやすい職場環境の整備に取り組み、企業を取り巻く著しい経営環境の変化に対応していけるよう人的資本投資に努めてまいります。

以上を当社グループの対処すべき課題とし、これまで取り組んでまいりました事業構造改革を定着・発展させ、将来にわたる安定的な収益基盤の確立と、財務体質の健全化に努めてまいります。

株主の皆様には倍旧のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2024年5月

代表取締役 影山英雄

トピックス

〈小倉店 本館〉6階 ニューオープン



キッチンスタイル+

日々の暮らしを豊かにする、国内や海外の有名ブランドの調理器具、キッチングッズを取り揃えたコーナーです。

〈小倉店 本館〉7階 ニューオープン



サステナベース

環境に配慮した商品等の販売や情報発信、ワークショップ、企業とのコラボレーションイベントを通じて、百貨店ならではのサステナブルライフを提案しております。

〈小倉店 本館〉2階 ニューオープン



レセプションルーム

特別なおもてなしができる体験型の商談室として外商顧客専用の「レセプションルーム」を新設いたしました。

〈小倉店 本館〉地階 ニューオープン



神戸が本店のモンロワールが北九州に初登場いたしました。モンロワールのロングセラーである「リーフメモリー」は、葉っぱの形をした3種類のチョコレートが1つに包まれた名作です。



横浜が本店のベルプラージュが北九州に初登場いたしました。世界中から集めた材料でチョコレートをアレンジしており、中でも自由の女神が掲げるトーチをモチーフにしたチョコレートは見ただ目もキュートです。

〈小倉店 本館〉2階 リニューアル



オメガショップ

ブランドカラーのレッドが映え、スタイリッシュなシャンデリアが印象的な店内には、ソファや椅子が用意され、座ってゆっくりとお買い物を楽しむことができます。

〈小倉店 新館〉7階 ニューオープン

井筒屋メモリアル ワンストップサービス

MUSUBI【結び】



小倉井筒屋 新館7階 エスカレーターサイド

終活の総合窓口がオープンしました

人生の結びをより良いものにするために、健康や家事代行、ハウスクリーニング、リフォームといった老後の暮らしから生前・遺品整理、葬儀・遺言・相続等の法律相談・手続きまで、幅広く相談を承り、各分野のプロフェッショナルをワンストップで紹介いたします。

〈環境保全活動〉森林保全チャリティ植樹会を開催



当社では、2022年からクリスマスの期間中、「京築ヒノキと暮らすプロジェクト」と連携・協働して制作した井筒屋オリジナルクリスマスオーナメントを販売いたしました。その収益金の一部を活用し、持続可能な社会の実現に向けた環境保全活動への支援としてつなげることができました。

〈北九州市制60周年×井筒屋創業88周年〉コラボトートバッグを発売



北九州市制60周年×井筒屋創業88周年を記念し、コラボトートバッグを制作いたしました。「ニュー北九州シティ」プロジェクトにおいて、そのキービジュアルである台湾人イラストレーターのShiho Soさんが描いたイラストをトートバッグにしました。販売収益は「北九州市SDGs未来基金」に全額寄付いたしました。

井筒屋グループ 中期3ヵ年経営計画(2022年度～2024年度)について

当社グループでは、「井筒屋グループ 中期3ヵ年経営計画(2022年度～2024年度)」を策定いたしております。本計画につきましては、コロナ禍により加速・顕在化した環境変化を踏まえ、従来型の規模や量を追求する事業モデルを見直す契機と捉え、量から質への「新たな事業モデルへの道筋をつける中計」と位置づけ、中長期の戦略実現に向けた検討・準備と、グループ保有資産の更なる強化に努めてまいります。

1. 当社グループのビジョン

グループビジョン:「地域小売業のリーディングカンパニーとして発展していく」

事業戦略 サステナビリティを基盤とした“質”の追求

当社グループに関わる全てのステークホルダー(顧客、取引先、従業員、株主)ならびに地域社会とのつながりの“質”を深化させ、地域共創基盤として持続可能な地域社会の発展に寄与してまいります。

営業戦略 リアルとデジタルの両面からお客様へ上質な人生を提案する

顧客情報を統合し諸施策に活用することで、店舗やネットショッピング等複数のチャネルを通じて顧客ニーズへ対応してまいります。

2. 戦略の方向性

短中期

●店舗における百貨店らしさの追求(競争優位性の確立・差別化)

自主編集運営ゾーンの刷新等による店舗価値の向上を図ってまいります。

●効率的な店舗運営と効果的な販売促進体制の維持(収益性の維持・向上)

SNS活用等効果的な宣伝経費運用により高収益構造の維持に努めてまいります。

中長期

●デジタルデバイスを基軸とした顧客単価向上(顧客接点の創造)

井筒屋アプリの導入により顧客統合基盤を構築し、効率的な営業施策を推進してまいります。

●優良顧客基盤×デジタルデバイスの活用(新たな収益基盤の確立)

将来的には、統合された顧客情報を活用し、顧客の求めるソリューションを提供してまいります。

3. 最終年度(2024年度)の数値目標 ※収益認識会計基準等適用後

連結業績	2023年2月期	2024年2月期		2025年2月期
	実績(2022年度) 本中計1年目	目標値(2023年度) 本中計2年目	実績(2023年度) 本中計2年目	目標値(2024年度) 本中計3年目
売上高	225億円	226億円	225億円	227億円
営業利益	11億円	8億円	9億円	9億円
営業利益率	5.2%	3.5%	4.4%	4.0%
経常利益	10億円	6億円	9億円	8億円
経常利益率	4.8%	2.7%	4.2%	3.5%

※2024年度の数値目標につきましては、2023年4月公表時は、営業利益を8億円、経常利益を6億円としておりましたが、業績を踏まえ記載のとおり修正いたしました。

CSR活動基本方針

井筒屋グループは、「秩序の上に立つ創造的繁栄」を経営理念とし、CSR活動を経営の重要課題として位置づけ、地域小売業のリーディングカンパニーとして発展していくことを目指しています。私たちはESGの視点から、E：環境保全に関する活動、S：地域社会での貢献活動、G：ガバナンスの強化をそれぞれ積極的に推進し、将来にわたって持続的に取り組み、企業価値の向上に努めます。


CSR活動を推進するにあたり、下記のとおりサステナビリティ基本方針ならびにESGそれぞれの方向性や重点課題を定め、「地域共創」により持続可能な社会の実現に向け取り組んでまいります。

サステナビリティ基本方針

私たちは、店舗周辺の河川や公園などの公共空間を活かした「環境共生型百貨店」を、地域と共に創出してまいります。この「地域共創」により、かかわりのあるすべての人々の豊かな未来と持続可能な社会の実現に向け、役割を果たしてまいります。

井筒屋グループESGについて

サステナビリティ重点課題 (ESG×SDGs)

ESG視点	方向性	重点課題	SDGs(目標)
E(環境)	環境保全と経済成長の両立による 企業価値の向上と事業基盤の強化	脱炭素社会の実現	
		サステナブルライフの推進	
		サプライチェーン・マネジメント	
S(社会)	働きやすい職場環境の整備や 多様な人材が活躍できる機会の創出	地域活性化・賑わい創出	
		ワークライフバランスの充実	
		ダイバーシティ&インクルージョン	
G(ガバナンス)	コーポレートガバナンスの遵守	ガバナンス体制構築とリスクマネジメント	

当社のCSR活動につきましては、当社のHPの「企業情報CSR」に掲載しております。

井筒屋ホームページ

<https://corp.izutsuya.co.jp/sustainability-report/>

スマートフォンの
方はこちらから



人的資本経営の取り組みについて

人的資本経営の考え方

当社グループは経営理念である「秩序の上に立つ創造的繁栄」を、すべての従業員が活動する上での基本的な考え方として、百貨店に求められる使命を追求し、事業を継続してまいります。そのためには「百貨店らしさの追求」が不変のテーマであると考えております。

この不変のテーマに取り組むための最も重要な要素は「人」であると捉え、人的資本への投資を通じて「人」を育み、「人」の成長と共に発展していく企業を目指してまいります。

人的資本投資の考え方

当社グループは、百貨店としての“質”を追求する上で、欠かせないものは「人財力」であると捉えております。

当社グループの求める「人財力」とは、主に世の中の変化に伴うお客様のニーズを見据えた企画・提案力や、お客様へ感動と共に商品を提供することのできる質の高い接客力等です。

これらの「人財力」に磨きをかけることが他小売業との差別化につながり、デジタル化が進む今日においても、百貨店ならではのより高い付加価値を生み出すことにつながるものと確信いたしております。

当社グループは、より多くの従業員の「人財力」に磨きをかけるため、従業員の学べる機会の創出を行うと共に、従業員が働きがいや幸福を感じ、安心して働き続ける職場環境を整える事に注力して人的資本投資を行ってまいります。

当社グループにおける経営戦略に基づいた人財戦略

経営戦略

サステナビリティを基盤とした“質”の追求
リアルとデジタルの両面から
お客様に上質な暮らしを提案する

人財戦略

人財力の強化＝人財の「質」の追求

リアル店舗戦略やデジタル戦略に掲げた経営戦略を実現するために
当社グループが描く具体的な人財像

- ・リアル店舗戦略における人財
 - ① お客様に上質な暮らしを提案するために他社と差別化された元売場の進化、深掘りを実現できる人財
 - ② 百貨店として求められる接客サービスのレベルアップに向けた指導ができる人財および自ら実践できる人財
- ・デジタル戦略における人財
 - ③ デジタルを活用した新たな売上獲得施策、お客様獲得施策や最大限の業務効率化を実現できる人財

指標および目標

当社グループは、以下を方針として人財力の強化へ取り組みます。

方針	施策	目標値
a.人財活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・女性活躍推進 ・若手社員活躍推進 ・シニア社員の活用 ・流動的な人財ポートフォリオ形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・女性活躍推進 ・女性管理職比率 2030年…40%以上 ・障がい者雇用 ・障がい者雇用比率 2030年…3%以上
b.人財育成	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代幹部社員の育成 ・百貨店売場人財の育成 ・学べる環境の提供 ・デジタル人財の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代幹部社員の育成 ・監督職(係長)に占める30代以下の割合 2030年…30%以上
c.働きやすい環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・就業時間などの見直し ・健康管理体制の強化 ・従業員施設等の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・就業時間などの見直し 1人当たり年間総労働時間 2030年…1,900時間以内 ・健康管理体制の強化 健康診断受診率・再受診率 100%継続

※目標は㈱井筒屋(本社)の数値

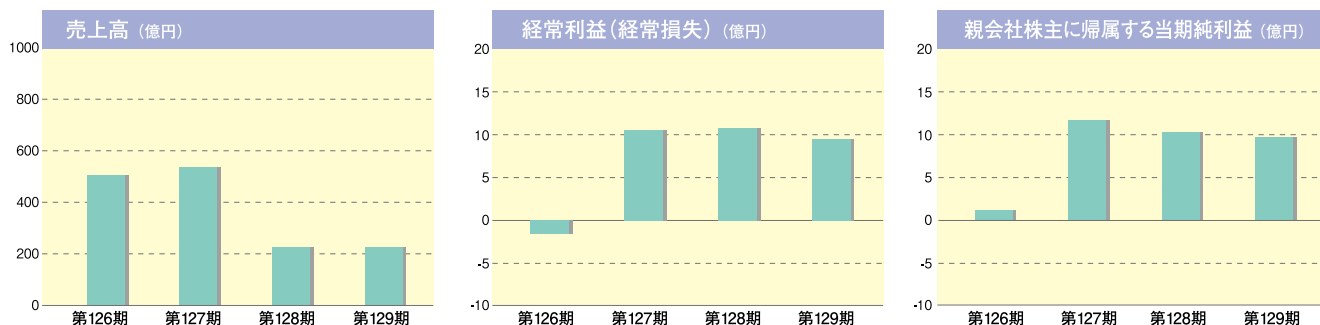
当社の人的資本経営の取り組みにつきましては、当社のHPの「企業情報CSR」に掲載しております。

財産および損益の状況の推移(連結)

区 分	第126期 (2020年3月から 2021年2月まで)	第127期 (2021年3月から 2022年2月まで)	第128期 (2022年3月から 2023年2月まで)	第129期 (2023年3月から 2024年2月まで)
売 上 高 (百万円)	50,534	53,144	22,573	22,521
経常利益または経常損失(△) (百万円)	△ 165	1,047	1,075	947
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益 (百万円)	111	1,171	1,019	966
1株当たり当期純利益 (円)	9.73	102.21	88.95	84.97
総 資 産 (百万円)	47,987	47,300	46,343	45,680
純 資 産 (百万円)	8,257	9,029	10,111	10,966

※1株当たり当期純利益は、期中平均株式数から期中平均自己株式数を控除した株式数により算出しております。

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を第128期の期首から適用しており、主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等になっております。



連結子会社 (2023年3月1日から2024年2月29日まで)

(株)山口井筒屋 (株)レストラン井筒屋

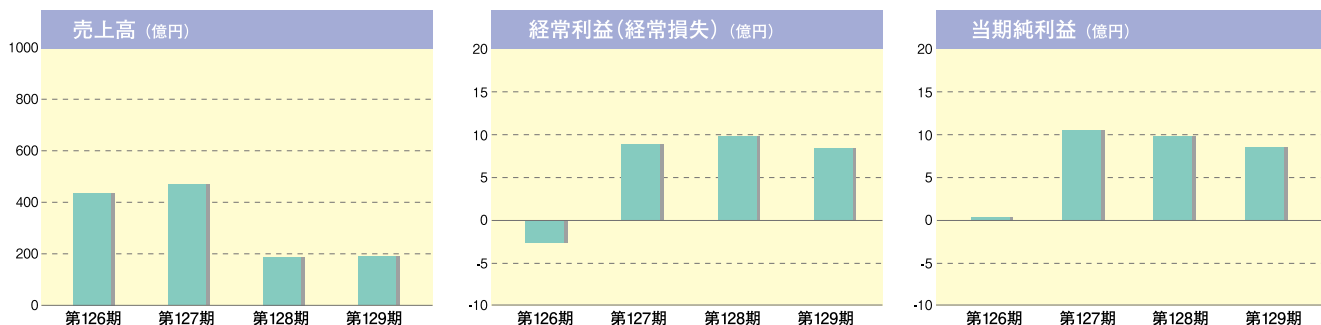
(株)井筒屋友の会 (株)井筒屋商事

財産および損益の状況の推移(個別)

区 分	第126期 (2020年3月から 2021年2月まで)	第127期 (2021年3月から 2022年2月まで)	第128期 (2022年3月から 2023年2月まで)	第129期 (2023年3月から 2024年2月まで)
売 上 高 (百万円)	43,960	46,449	18,836	18,952
経 常 利 益 また は 経 常 損 失 (△) (百万円)	△ 259	889	983	844
当 期 純 利 益 (百万円)	22	1,006	995	862
1 株 当 り 当 期 純 利 益 (円)	1.93	87.88	86.91	75.82
総 資 産 (百万円)	45,180	44,509	43,681	43,016
純 資 産 (百万円)	6,773	7,374	8,307	9,059

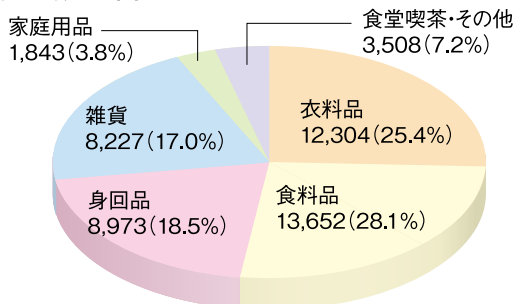
※1株当たり当期純利益は、期中平均株式数から期中平均自己株式数を控除した株式数により算出しております。

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を第128期の期首から適用しており、主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等になっております。



商品別売上高(個別) (2023年3月1日から2024年2月29日まで)

商品別売上高(単位:百万円)



※売上高数値におきましては、収益認識会計基準等適用前の値を記載しております。

財務諸表(連結)

● 連結貸借対照表(単位:百万円)

資産の部	第127期 (2022年2月期)	第128期 (2023年2月期)	第129期 (2024年2月期)
流動資産	7,534	7,952	7,635
現金及び預金	3,604	3,660	3,404
受取手形及び売掛金	1,546	1,797	1,766
商品	1,989	2,058	2,052
貯蔵品	21	19	20
その他	372	415	390
貸倒引当金	△ 0	△ 0	△ 0
固定資産	39,766	38,391	38,044
有形固定資産	35,345	34,389	33,648
建物及び構築物	10,819	9,968	9,220
土地	24,011	24,011	24,011
リース資産	60	67	121
建設仮勘定	1	0	3
その他	451	340	291
無形固定資産	195	213	532
リース資産	112	71	376
ソフトウェア仮勘定	—	69	38
その他	83	71	118
投資その他の資産	4,225	3,788	3,863
投資有価証券	1,431	1,512	1,553
差入保証金	1,980	1,418	1,418
繰延税金資産	451	374	405
その他	415	537	540
貸倒引当金	△ 54	△ 54	△ 54
資産合計	47,300	46,343	45,680

負債の部	第127期 (2022年2月期)	第128期 (2023年2月期)	第129期 (2024年2月期)
流動負債	26,378	25,971	25,561
支払手形及び買掛金	3,811	4,116	4,186
短期借入金	11,833	11,333	11,333
リース債務	73	59	144
未払法人税等	35	10	10
前受金	7,454	3,087	3,008
賞与引当金	56	58	59
ポイント金券引当金	127	—	—
設備関係支払手形	211	77	156
契約負債	—	4,417	4,106
その他	2,774	2,810	2,554
固定負債	11,892	10,260	9,151
長期借入金	6,509	5,176	3,842
リース債務	99	79	353
再評価に係る繰延税金負債	3,278	3,278	3,278
商品券回収損失引当金	854	618	616
退職給付に係る負債	783	748	678
役員株式給付引当金	—	—	7
従業員株式給付引当金	—	—	7
資産除去債務	261	248	269
預り保証金	76	81	99
その他	30	30	—
負債合計	38,270	36,231	34,713
純資産の部			
株主資本	3,629	4,724	5,578
資本金	100	100	100
資本剰余金	924	924	924
利益剰余金	2,632	3,727	4,637
自己株式	△ 27	△ 27	△ 82
その他の包括利益累計額	5,400	5,387	5,387
その他有価証券評価差額金	21	17	20
土地再評価差額金	5,362	5,362	5,362
退職給付に係る調整累計額	16	7	4
純資産合計	9,029	10,111	10,966
負債・純資産合計	47,300	46,343	45,680

● 連結損益計算書 (単位:百万円)

	第127期 (2022年2月期)	第128期 (2023年2月期)	第129期 (2024年2月期)
売上高	53,144	22,573	22,521
売上原価	41,013	11,249	11,210
売上総利益	12,131	11,323	11,311
販売費及び一般管理費	10,846	10,146	10,313
営業利益	1,284	1,177	998
営業外収益	862	436	463
受取利息	0	0	0
受取賃貸料	65	65	65
協賛金収入	10	22	19
未回収商品券受入益	379	184	180
持分法による投資利益	111	17	40
システム導入負担金収入	—	—	40
助成金収入	184	86	—
その他の	111	59	118
営業外費用	1,100	537	514
支払利息	348	317	281
売上割引	381	—	—
商品券回収損失引当金繰入額	242	124	137
その他の	127	95	95
経常利益	1,047	1,075	947
特別利益	—	—	—
特別損失	5	—	—
税金等調整前当期純利益	1,041	1,075	947
法人税、住民税及び事業税	51	10	10
法人税等調整額	△180	45	△30
当期純利益	1,171	1,019	966
親会社株主に帰属する当期純利益	1,171	1,019	966

● 連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

	第127期 (2022年2月期)	第128期 (2023年2月期)	第129期 (2024年2月期)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,978	2,011	1,912
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 833	13	△ 608
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,468	△ 1,968	△ 1,571
IV 現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 323	56	△ 268
V 現金及び現金同等物の期首残高	3,928	3,604	3,660
VI 現金及び現金同等物の期末残高	3,604	3,660	3,392

財務諸表(連結)

● 連結株主資本等変動計算書 (単位:百万円) (2023年3月1日から2024年2月29日まで)

項目	株主資本				株主資本合計	その他の包括利益累計額				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	100	924	3,727	△27	4,724	17	5,362	7	5,387	10,111
当期変動額										
剰余金の配当			△57		△57					△57
親会社株主に帰属する当期純利益			966		966					966
自己株式の取得				△55	△55					△55
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						3		△2	0	0
当期変動額合計	—	—	909	△55	854	3	—	△2	0	855
当期末残高	100	924	4,637	△82	5,578	20	5,362	4	5,387	10,966

財務諸表(個別)

貸借対照表(単位:百万円)

資産の部	第127期 (2022年2月期)	第128期 (2023年2月期)	第129期 (2024年2月期)
流動資産	6,701	7,108	6,808
現金及び預金	3,503	3,581	3,319
受取手形	7	5	6
売掛金	1,337	1,598	1,528
商品	1,552	1,590	1,620
貯蔵品	16	15	17
その他	284	316	316
貸倒引当金	△ 0	△ 0	△ 0
固定資産	37,807	36,572	36,207
有形固定資産	35,199	34,273	33,554
建物	10,669	9,846	9,117
構築物	39	34	29
什器備品	415	313	271
土地	24,011	24,011	24,011
リース資産	60	67	121
建設仮勘定	1	0	3
無形固定資産	187	205	524
リース資産	112	71	376
ソフトウェア	39	27	74
電話加入権	35	35	35
ソフトウェア仮勘定	—	69	38
投資その他の資産	2,420	2,093	2,128
投資有価証券	97	96	96
関係会社株式	81	81	81
長期貸付金	3,326	3,431	3,394
差入保証金	765	203	203
繰延税金資産	333	356	383
その他	342	460	464
貸倒引当金	△2,525	△2,535	△2,495
資産合計	44,509	43,681	43,016

負債の部	第127期 (2022年2月期)	第128期 (2023年2月期)	第129期 (2024年2月期)
流動負債	25,901	25,486	25,094
支払手形	28	28	24
買掛金	3,197	3,507	3,556
短期借入金	16,733	17,233	17,233
リース債務	73	59	144
未払法人税等	10	10	9
前受金	297	—	—
預り金	2,910	1,613	1,292
賞与引当金	48	50	51
ポイント金券引当金	110	—	—
設備関係支払手形	210	77	156
契約負債	—	593	606
その他	2,278	2,311	2,019
固定負債	11,233	9,887	8,862
長期借入金	6,006	4,772	3,538
リース債務	99	79	353
再評価に係る繰延税金負債	3,278	3,278	3,278
退職給付引当金	757	720	648
債務保証引当金	108	87	91
商品券回収損失引当金	644	618	616
役員株式給付引当金	—	—	7
従業員株式給付引当金	—	—	7
資産除去債務	240	226	248
預り保証金	68	73	73
その他	30	30	—
負債合計	37,134	35,373	33,956

純資産の部

株主資本	2,003	2,937	3,687
資本金	100	100	100
資本剰余金	924	924	924
資本準備金	924	924	924
利益剰余金	1,006	1,940	2,745
その他利益剰余金	1,006	1,940	2,745
繰越利益剰余金	1,006	1,940	2,745
自己株式	△ 27	△ 27	△ 82
評価・換算差額等	5,371	5,370	5,371
その他有価証券評価差額金	9	8	9
土地再評価差額金	5,362	5,362	5,362
純資産合計	7,374	8,307	9,059
負債・純資産合計	44,509	43,681	43,016

※「無形固定資産」の「その他」に含めておりました「ソフトウェア」は金額的重要性が増したため、当事業年度より区分掲記しており、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

● 損益計算書(単位:百万円)

	第127期 (2022年2月期)	第128期 (2023年2月期)	第129期 (2024年2月期)
売上高	46,449	18,836	18,952
売上原価	36,034	8,746	8,852
売上総利益	10,415	10,089	10,100
販売費及び一般管理費	9,065	8,911	9,120
営業利益	1,350	1,178	979
営業外収益	728	517	554
受取利息	49	53	58
貸倒引当金戻入益	90	—	35
債務保証引当金戻入益	—	6	—
協賛金収入	8	22	18
助成金収入	156	69	—
システム導入負担金収入	—	—	40
その他の収益	423	365	401
営業外費用	1,189	712	689
支払利息	568	473	434
その他の費用	621	239	254
経常利益	889	983	844
特別利益	—	—	—
特別損失	5	—	—
税引前当期純利益	883	983	844
法人税、住民税及び事業税	10	10	9
法人税等調整額	△133	△22	△27
当期純利益	1,006	995	862

● 株主資本等変動計算書(単位:百万円) (2023年3月1日から2024年2月29日まで)

項目	株主資本						評価・換算差額等			純資産合計	
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本合計	其他 有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金		評価・換算 差額等 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計						
当期首残高	100	924	924	1,940	1,940	△27	2,937	8	5,362	5,370	8,307
当期変動額											
剰余金の配当				△57	△57		△57				△57
当期純利益				862	862		862				862
自己株式の取得						△55	△55				△55
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)								0		0	0
当期変動額合計	—	—	—	805	805	△55	750	0	—	0	751
当期末残高	100	924	924	2,745	2,745	△82	3,687	9	5,362	5,371	9,059



本店 〒802-8511
北九州市小倉北区船場町1番1号
電話(093)522-3111



山口店 〒753-0086
山口県山口市中市町3番3号
電話(083)902-1111

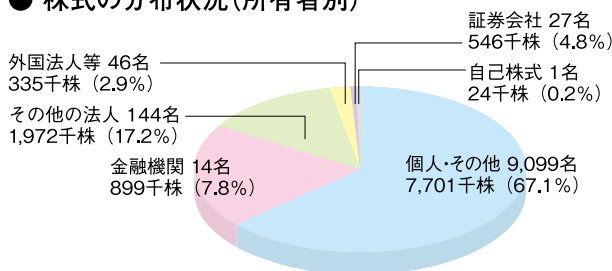
- 北九州空港店 北九州市小倉南区空港北町6番
〒800-0306 電話(093)475-0102
- 守恒ショップ 北九州市小倉南区守恒一丁目11番25号
〒802-0972 電話(093)963-4370
- 下曾根駅前ショップ 北九州市小倉南区下曾根新町10番1号
〒800-0221 電話(093)475-5671
- 二島ショップ 北九州市若松区二島一丁目3番1号
〒808-0103 電話(093)701-0655
- 高須ショップ 北九州市若松区高須南二丁目2番1号
〒808-0145 電話(093)741-3286
- イオンタウン黒崎ショップ 北九州市八幡西区西曲里町3番1号
〒806-0036 電話(093)643-5111
- 三ヶ森ショップ 北九州市八幡西区三ヶ森三丁目9番1号
〒807-0843 電話(093)613-3001
- 中間ショップ 福岡県中間市蓮花寺一丁目2番
〒809-0014 電話(093)246-2000
- 直方ショップ 福岡県直方市知古756
〒822-0022 電話(0949)24-0311
- イオンモール直方ショップ 福岡県直方市湯野原二丁目1番1号
〒822-0008 電話(0949)28-7390
- 田川ショップ 福岡県田川市日の出町1番3号
〒825-0012 電話(0947)45-2785
- 苅田ショップ 福岡県京都郡苅田町殿川町1番7号
〒800-0312 電話(093)436-2100
- ゆめタウン行橋ショップ 福岡県行橋市西宮市三丁目8番1号
〒824-0031 電話(0930)28-8273
- 飯塚ショップ 福岡県飯塚市菰田西三丁目6番1号
〒820-0017 電話(0948)22-3130
- 宗像ショップ 福岡県宗像市くりえいと一丁目5番1号
〒811-4184 電話(0940)35-6132
- 中津ショップ 大分県中津市蛭子町三丁目99番地
〒871-0065 電話(0979)23-8555
- 周南ショップ 山口県周南市銀南街33番地
〒745-0031 電話(0834)33-1228
- 宇部ショップ 山口県宇部市黒石北三丁目4番1号
〒759-0213 電話(0836)39-8887

株式の状況 (2024年2月29日現在)

● 株式の状況

発行可能株式総数	20,000,000株
発行済株式の総数	11,480,495株
一単元の株式の数	100株
株主数	9,331名

● 株式の分布状況(所有者別)



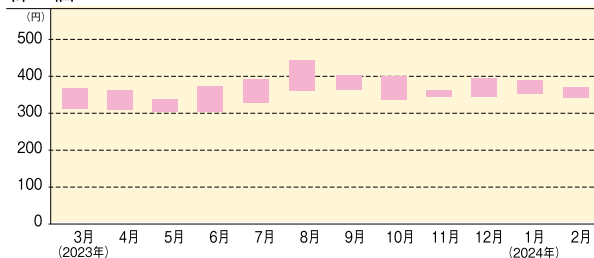
● 大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数	持株比率
井筒屋共栄持株会	1,140千株	10.0%
西日本鉄道株式会社	1,052	9.2
ガバナンス・パートナーズ投資事業有限責任組合	850	7.4
青柳和洋	474	4.1
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	337	2.9
上野投資株式会社	260	2.3
投資事業有限責任組合ガバナンス・パートナーズ経営者ファンド	200	1.7
松井証券株式会社	149	1.3
株式会社日本カस्टディ銀行(信託E口)	147	1.3
株式会社北九州銀行	139	1.2
合計	4,750	41.5

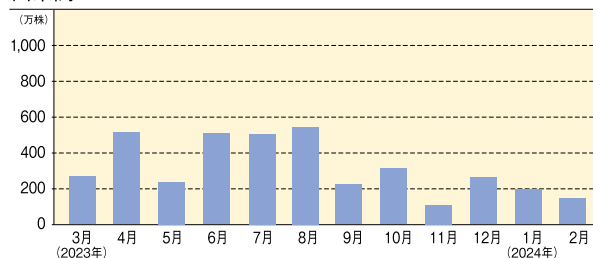
(注) 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

● 株価および出来高の推移

株価



出来高



会社の概要 (2024年2月29日現在)

□ 設立 1935年7月30日
□ 開店 1936年10月6日
□ 資本金 100,000,000円

□ 事業内容 百貨店事業
□ 本社 北九州市小倉北区船場町1番1号
電話 (093) 522-3111

従業員の状況 (2024年2月29日現在)

□ 井筒屋グループの従業員の状況

事業の種類別の区分	従業員の数	前期末増減
百貨店業	695名	31名減
友の会事業	1名	増減なし

□ 株式会社井筒屋の従業員の状況

区分	従業員の数	前期末増減	平均年齢	平均勤続年数
男性	212名	9名減	54.1歳	19.4年
女性	368名	18名減	47.7歳	16.5年
合計または平均	580名	27名減	50.0歳	17.5年

取締役および執行役員、監査役 (2024年5月23日現在)

● 取締役および執行役員

代表取締役
社長執行役員 影山 英雄
取締役
常務執行役員 吉田 功
取締役
常務執行役員 松本 圭
取締役 安田堅太郎 社外 独立
取締役 窪田 弥生 社外 独立
執行役員 大森 俊介
執行役員 高橋 昭一

● 監査役

常勤監査役 細迫 有文
監査役 成清 雄一 社外 独立
監査役 梅田 久和
監査役 嘉藤 晃玉 社外

I. 『株主お買物優待券』について

1. ご優待券の発行基準

2月末日および8月末日現在、100株以上ご所有の株主様に対し、次のとおりお買物優待券を発行いたします。

100株以上	300株未満	10枚
300株以上	500株未満	20枚
500株以上	1,000株未満	30枚
1,000株以上		50枚

2. 取扱店舗

本店、山口店、井筒屋サテライトショップ各店

3. 有効期限(今回発行分)

2024年11月30日まで有効

4. ご優待方法

①上記各店舗で現金による本体価格2,000円以上のお買物(適用除外品目および売場を除く)1回につき、消費税を含むお買物代金の7%を割引いたします(ただし、割引額の1円未満は切り捨て)。

なお、お支払いにつきましては現金、井筒屋商品券(井筒屋・井筒屋グループ発行の商品券)、井筒屋ギフトカードのほか、全国百貨店共通商品券、百貨店ギフトカードに限りです。

②1回のお買物につき優待券1枚のご使用となります。

③適用除外品目および売場

- 商品券、各種ギフトカード・進物券
- はがき、切手、印紙、クオカード、図書カード、前売券、各種回数券
- 金・白金の地金、住宅(含関連工事)、保険料、駐車料金、荷具送料
- ルイ・ヴィトン、ロレックス、ティファニー、アーバンリサーチ、ビューティアンドユースユナイテッドアローズ、その他一部のブランドおよびショップ
- 家電売場、旅行センター、ブックセンタークエスト、モンベル、カフェコムサ、ボーコンセプト
- 代金引換配送、掛売入金および各種優待券との併用使用(友の会券・カード、ウィズカードとの併用はできません)
- 正札よりの割引商品
- その他特に指定したもの

なお、適用除外品目および売場につきましては、予告なく変更させていただきます場合もございますので、予めご了承ください。

※詳しくは店頭にて係員にお尋ねください。

5. お願い

ご利用の際には株主様のご署名をお願いいたします。

II. インターネットショッピング『井筒屋オンライン』でのお買物優待割引について

1. ご優待内容

①ご優待の基準

2月末日および8月末日現在、100株以上ご所有の株主様に対し一律。

②ご優待方法

インターネットショッピング『井筒屋オンライン』でのお買物(適用除外品目および売場を除く)1回につき、消費税を除くお買物代金の7%を割引いたします(ただし、割引額の1円未満は切り捨て)。

なお、お支払いにつきましては、クレジットカード1回払いのご決済のみとなります。

2. 有効期限(今回対象分)

2024年11月30日まで有効

※有効期限までは何度でもお買物にご利用いただけます。

3. ご利用方法

インターネットショッピング『井筒屋オンライン』(<http://www.izutsuya-online.co.jp/>)にアクセスすることでご利用いただけます。詳細につきましては本書同封の「株主ご優待制度のご案内」をご参照ください。

4. 適用除外品目および売場

前記I.『株主お買物優待券』についての4.ご優待方法の③に記載の適用除外品目および売場に同じです。

5. ご注意

- (1)株主様ご本人の個人クレジットカード名義でのお買物に限らせていただきます。
- (2)株主お買物優待券のご提示やご郵送の必要はございません。
- (3)株主お買物優待券の他、各種特典割引との併用はできません。
- (4)送料につきましては、割引の対象となりませんのでご了承ください。

株主メモ

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会	毎年5月に開催
剰余金の配当受領株主確定日	2月末日 その他取締役会決議により定める日
基準日	定時株主総会関係 2月末日 その他あらかじめ公告して定める日
公告方法	電子公告により、当社ホームページに掲載します。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 ※貸借対照表および損益計算書につきましては、以下のアドレスに掲載しております。 http://www.izutsuya.co.jp/
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵送物送付先・電話お問合せ先	

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)
郵送物送付先	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問合せ先		フリーダイヤル 0120-288-324(土・日・祝日を除く9:00~17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金受取り方法の変更等)		みずほ証券 本店および全国各支店 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)でもお取扱いたします。 みずほ信託銀行 本店および全国各支店(※) (※)トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行(※)およびみずほ銀行の本店および全国各支店(みずほ証券では取次のみとなります) (※)トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合せ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

上場証券取引所	東京・福岡
証券コード	8260
ホームページアドレス	http://www.izutsuya.co.jp/

ホームページのご案内

ホームページアドレス <http://www.izutsuya.co.jp/>

■井筒屋 TOP PAGE



井筒屋ホームページは、毎週の催物やサービス・施設のご案内から企業・投資家情報まで掲載しております。手軽にご家庭でもショッピングをお楽しみいただけます。

■企業・投資家情報

決算情報、株式の状況、ニュースリリースなど投資家の皆様への情報を掲載しています。



■井筒屋各店舗の最新情報

お買得情報やイベント情報、新着商品のご案内など、毎週お得な情報を満載してお届けしています。



■オンラインショッピング

ギフト商品や話題の商品を自宅からネットショッピングできるオンラインモールです。



■WEB会員サービス



■WEBチラシ



※当画面情報は本紙作成時点のものです。



IZUTSUYA